

ケータイテレビ電話で『モバチュウ』完全ネット中継

『モバチュウ』

「モバチュウ」の仕組み

電動車椅子サッカーは重度障害者のために考案されたスポーツである。コート上では呼吸器を搭載した車椅子で熱いプレーをする選手もいる。日本電動車椅子サッカー協会では毎年全国の各ブロックを勝ち抜いた16チームで全国大会を開催している。地元で勝利に貢献した選手の中には障害のため長距離移動が困難で、遠征できない場合もある。実際に会場に行くことができなくても、何とか自宅にいて試合の様子を知ることができないかとの選手の願いを実現した取り組みが、NPO法人STANDによるケータイとインターネットを使ったモバイルライブ中継である。

その方法は以下のとおりである。

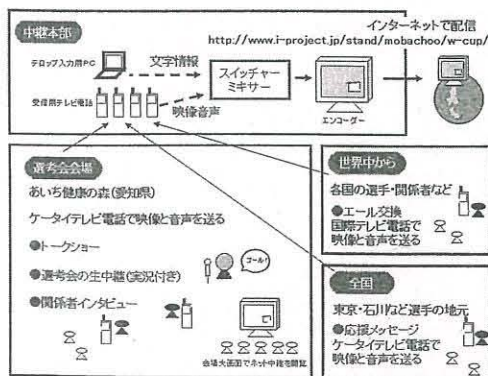
- ① 専用のホームページを開設する。
- ② 試合会場では、ケータイテレビ電話(テレビ電話機能付きの携帯電話)で試合の様態、選手のインタビューを撮影・発信する(図1)。
- ③ 出場できない選手の自宅から、ケータイで応援メッセージを発信する。応援メッセージは、在宅の選手、出場選手の家族、サッカーを通じて交流のある小学校など多地点から発信する。
- ④ これらを中継本部に集約し、専用ホームページへリアルタイムで動画配信する(図2)。

この中継は2003年の大会に始まり、以降大会公式中継として毎年実施している。年々アクセス、応援メッセージの数も増加し浸透していく中で、心からの親しみを込めて「モバチュウ」と名づけた。

〔図1〕 試合の様子と家からの応援を発信



〔図2〕 ネットワーク構成



W杯代表選手選考会の中継

今年、参加6カ国(予定)を迎え、FIPFA (Federation International of Powerchair Football Association) ワールドカップ第1回の日本開催が決定した。

記念すべき第1期日本代表の選考会が4月愛知県で開かれ、生中継「モバチュウ」を実施した。一次選考を経た23名の選手の熱い戦い、日本代表アドバイザーの岡田武史さんからの厳しく暖かいアドバイス、日本代表の切符に挑戦する選手に、地元のチームメイトや海外のFIPFAの関係者からメッセージを配信した。アクセスは2,500を超え、中継を通してW杯への機運も自ずと盛り上がった。



撮影もケータイのカメラ機能で



元代表監督の岡田武史氏が参加したワールドカップ・トークをモバチュウ

誰でも生中継で参加できる

会場へ応援に行けなかったチームメイトの一人は、ケータイに向かって応援歌を熱唱してくれた。会場のモニターで閲覧していた人々から歓声が湧きあがった。

「自分たちのチームの歌を世界に向けて発信できたのは、とても楽しかったし、嬉しかった。メッセージを送った後、見たよ!とたくさんのメールをもらった。歌にしる、スポーツにしる、それぞれが持つ『やりたい気持ち』を大きくしていくことができるのは本当に素晴らしいことだと思う。この中継によって、そんな小さなとももし火を大きくしていければ良いと思う」とは、歌ってくださったご本人、横浜の渡辺さんの後日談だ。

メッセージと画像品質

5年前、初めての取り組みに参加したある技術者から、本番も迫ったある日突然中止の提案があった。ケータイのテレビ電話の画像の粗さを露呈するだけの結果になりはしないか、との危惧からである。世は高品質画像の時代である。しかし、高画質がすべてなのではなく、コンテンツによっては、それを伝える有効な手段は他にも存在する、ということを前述の渡辺さんのコメントが明らかにしてくれている。想いを双方向で通い合わせるのに、モバチュウは遜色ない。

いよいよ今年10月、6カ国の選手と応援を送る世界中の人たちに向けて、記念すべき第1回ワールドカップ「モバチュウ」を行う。

(文：NPO法人STAND)